

ING

Information
Network
Group **vol.21**
2020 **Spring**

リーダーの肖像
×防災-ing

自分の命は自らが守る。 防災の基本原則。

内閣府政策統括官(防災担当)
青柳 一郎 氏

Nature bears
the will to
growth

Environment
feeds the
energy for
change



【 自然は成長への意志を担う 環境は変化のための力を育む 】

輝き
Interview

バラエティもニュースも、自然体のわたしで。
毎日放送 アナウンサー **玉巻 映美**さん

Pick Up
Interview

スピード感を持って 着実に、ふるさとの復興に取り組む。
長野県長野市長 **加藤 久雄**氏

国際事件
記者の目

忖度社会から脱却しよう。正直が日本を救う。
ジャーナリスト **中島 健一郎**氏

Contents

- | | | | |
|----|--|----|---|
| 02 | リーダーの肖像×防災-ing
内閣府政策統括官(防災担当) 青柳 一郎 氏
自分の命は自らが守る。それが、防災の基本原則。 | 22 | Moving Beyond
画家・アーティスト 中北 紘子 さん
描くことは、祈ること。感情を見つめ、思いを色に託す絵。 |
| 08 | 輝き Interview
毎日放送アナウンサー 玉巻 映美 さん
バラエティもニュースも、自然体のわたしで。 | 24 | Asian Now
元駐ベトナム大使 坂場 三男 氏
「上から目線」はベトナムビジネスの敗因になる!! |
| 12 | Pick Up Interview
長野県長野市長 加藤 久雄 氏
スピード感を持って着実に、ふるさとの復興に取り組む。 | 26 | SCOOP
実は中小企業ほど狙われています
今すぐ「サイバーセキュリティ対策」を!
警視庁サイバーセキュリティ対策本部 |
| 16 | HOT BREAK
廣野ゴルフ倶楽部 支配人 高塚 勝久 氏
名設計家・アリソンが手掛けた「原点」今によみがえらせる | 30 | 国際事件記者の目
ジャーナリスト 中島 健一郎 氏
付度社会から脱却しよう。正直が日本を救う。 |
| 18 | Health Information
六本木 柴眼科 院長 日本白内障屈折矯正手術学会 理事
柴 琢也 氏 白内障について | 32 | Asian Now
一泊二日のミャンマー弾丸紀行 |

他：組合広告 表4：公益財団法人 ながの観光コンベンションビューロー

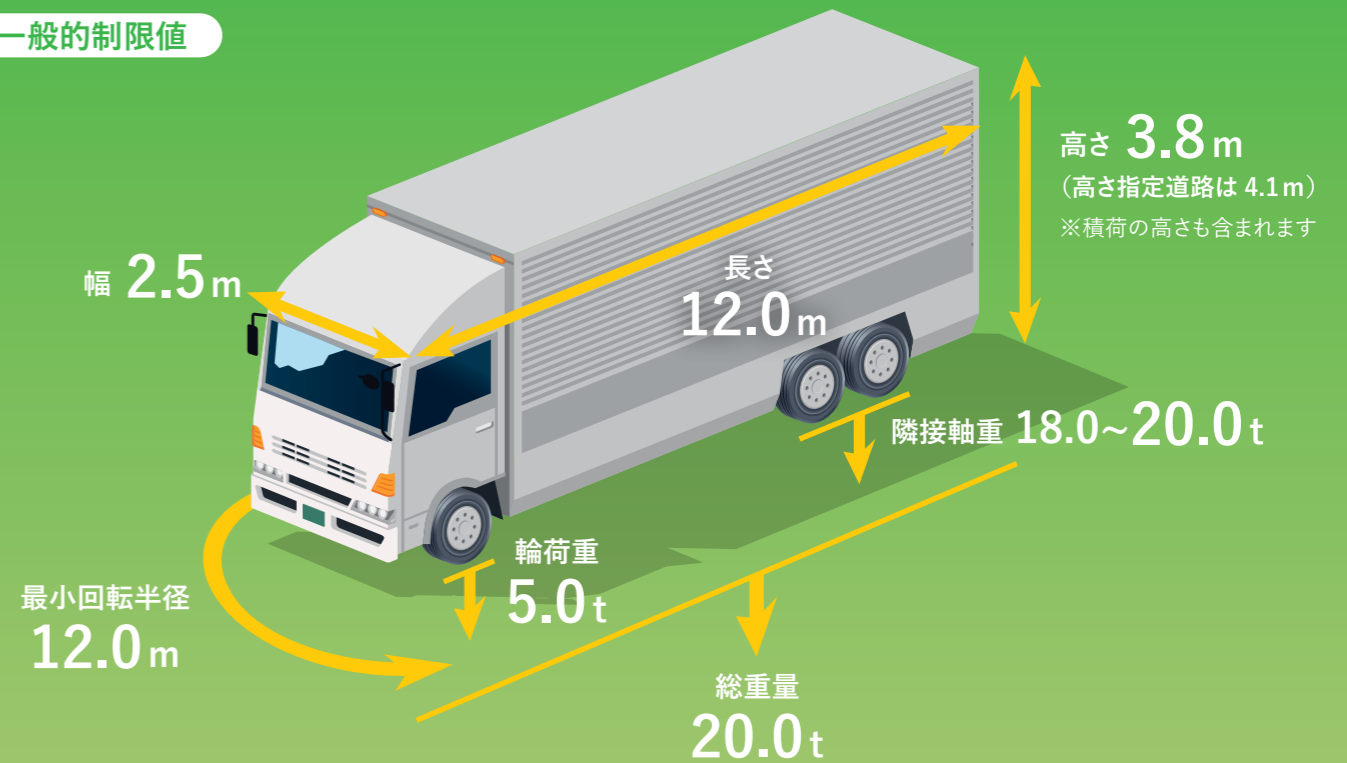


ING 2020年 vol. 21 発行：一般社団法人国際情報普及協会 〒105-0004 東京都港区新橋5-12-1 露月町ビル4階 TEL：03-3434-6203
編集長：小松 宣俊 製作・編集者：岩崎 亮太郎・吉田 安希 デザイン：株式会社プランニング・ロケット 表紙の英文と訳：本山 清治 印刷：株式会社タイム 定価：300円(税別)
※本紙の掲載記事の無断転載を禁じます。 ※掲載内容・広告のお問い合わせは、編集部まで

車両制限令を守りましょう!!

道路は、一定の構造基準によって作られており、構造の保全、交通の危険防止のため、通行する車両の大きさや重さの最高限度(一般的制限値)が定められています。「車両制限令違反」とは、車両全体の重量が一般的制限値又は許可された限度値を超過することをいいます。

一般的制限値



もし車両制限令に違反してしまったら...

車両制限令に違反した場合、道路管理会社から「措置命令書」もしくは「指導警告書」が、運転手へ交付されます。交付された場合は、速やかに会社へ報告して下さい。報告をしないままにしておくと、点数が累積され、会社の方へ「ペナルティ(割引停止等)」が発生する可能性があります。



会社へ報告する
会社が組合へ報告し、適切な処置方法を検討



会社へ報告しない
累積点数が増え、会社の方へペナルティが発生





自分の命は自らが守る。 それが、防災の基本原則。

ここ数年、毎年のように自然災害が発生している日本。集中豪雨や台風による被害は甚大で、住民生活や地域経済に深刻な影響を及ぼしています。さらに大規模地震の発生が懸念されるなど、防災はこの国の最重要課題となっています。今後もいつ、何時、どこで起こるか分からない自然災害とどのように向き合えばよいのか。内閣府政策統括官（防災担当）の青柳一郎さんに語っていただきました。

内閣府政策統括官（防災担当）

あお やぎ いち ろう
青柳 一郎 氏

【プロフィール】
1962年生まれ 神奈川県出身 東京大学法学部卒業
1986年建設省（現・国土交通省）入省 国土交通省大臣官房総務課長、
内閣府地方創生推進事務局審議官、国土交通省大臣官房政策立案総括審議官
などを経て2019年7月より現職

【聞き手】 本誌編集長 小松 宣俊

発災時に被災者を支援

わが国では、防災に関する行政各部の施策の統一を図るために、内閣府に特命大臣の防災担当大臣が置かれています。わたしが拝命している内閣府政策統括官（防災担当）はその下で、広範な分野において政府全体の見地から関係行政機関の連携の確保を図るために、防災に関する基本的な政策、大規模災害発生時の対処に関する企画立案や総合調整などを行っています。

例えば、万一の発災時に関係省庁災害対策会議を開催し、各省庁と情報の共有を行い、それぞれの対応が十分になされているかどうかの確認を行った上で、必要な対策を講じていきます。また、災害の程度が大きい場合には内閣官房とともに首相官邸に詰めることもあり、災害が予想される場合にはあらかじめ内閣府の会議室で警戒待機をすることもあります。被災者支援も重要な業務です。こちらは内閣府独自の施策であり、大きく三つに分けることができます。一つ目は激甚災害に指定された地域、つまり豪雨や台風、地震などにより著しい被害を受けた地域に対して、その復旧にかかる国庫補助率のかさ上げなどを行うというものです。二つ目は、避難場所の運営や仮設住宅の建設などに対する財政支援です。そして三つ目は、被災者生活再建支援法に基づき、

住宅が全壊したり大規模半壊した住民の方に都道府県が支援金を支給する際、その費用の一部を補助するというものです。防災に関する基本的な政策については、内閣府では地震・津波・火山・大規模水害等の防災・減災対策の推進を行なっています。こちらについては昨年、中央防災会議・防災対策実行会議におけるワーキンググループで水害や土砂災害からの避難に関するガイドラインを改定し、昨年3月から新しい取り組みをスタートさせました。

取るべき行動を5段階に

その取り組みとは「住民の避難行動等を支援する防災情報の提供」というものです。皆さんも昨年の台風15号や台風19号の襲来時にNHKをはじめとするテレビのニュースで、あるいはスマートフォンへの通知で「警戒レベル5」や「命を守る最善の行動」という文言を何度もご覧になったと思いますが、これはこの取り組みを通じて始められたものなのです。

その大きな特徴として、まず、住民の方が取るべき行動を警戒レベル1から5までの5段階に分けたことが挙げられます。その段階を軽い方から順番にご説明すると、警戒レベル1は「心構えを高める」、警戒レベル2は「避難行動の確認」、警戒レベル3は「高齢者等は避難 他

住民は準備」で、これは高齢者はもとより、障害者や要介護者といった災害弱者の方は避難場所など安全なところに避難しなければならぬ、という段階です。続く警戒レベル4の「全員避難」は、全員が避難しなければならぬという段階であり、さらに警戒レベル5の「命を守る最善の行動」においてはその文言の通りです。しかし、ただ取るべき行動を5段階に分けただけでは、いつどのようなタイミングでそうすればいいのか分かりません。そこでこの取り組みでは、5段階それぞれのレベルと、気象庁等が発表する防災気象情報や自治体が発令する避難情報

とを紐づけしました。例えば、ある地域で「大雨警報」や「高齢者等避難開始」が発令されれば、それは警戒レベル3の「高齢者等は避難 他」住民は準備」と結びつき、その地域にお住いの高齢者や障害者をお持ちの方は速やかに避難場所へ避難していただくか、現在いるところが安全な場所であれば、そこにとどまっていたら、「氾濫危険情報」や「避難勧告」が発令されれば、それは警戒レベル4の「全員避難」と結びつき、その地域にお住いの方全員が安全な場所に避難もしくは待避していただく、というようになります。

住民の避難行動等を支援する防災情報の提供

災害時に、避難行動が容易に取れるよう、
防災情報をわかりやすく提供。

- 住民が取るべき行動を5段階に分け、情報と行動の対応を明確化。
- 出された情報と取るべき行動を直感的に理解しやすいものとし、住民の主体的な避難を支援

【避難のタイミングを明確化】

レベル3：高齢者等避難 レベル4：全員避難

- 特別警戒を含む防災気象情報についても、各レベルとの対応を整理し、その位置づけを明確化し提供

警戒レベル (洪水、土砂災害)	住民が取るべき行動	行動を促す情報	防災気象情報
警戒 レベル5	命を守る 最善の行動	災害の発生情報 (出来る範囲で発表)	指定河川 洪水予報 土砂災害 警戒情報 警報 危険度分布 等
警戒 レベル4	全員避難	・避難勧告 ・避難指示(緊急)	
警戒 レベル3	高齢者等は避難 他の住民は準備	避難準備・ 高齢者等避難開始	
警戒 レベル2	避難行動の確認	注意報	
警戒 レベル1	心構えを高める	早期注意情報	

防災対策に終わらな

このように避難のタイミングを具体的にかつ明確に分け、防災気象情報や避難情報と紐づけするという取り組みは、2年前の夏に広島県や岡山県を中心とする西日本に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」を契機として始まったものです。当時、さまざまな情報が発信されていたにもかかわらず、それが多様かつ難

解であったため、残念ながら多くの住民の方に活用されることはありませんでした。このことを教訓として、住民の方が情報の意味を直感的に理解でき、より早く行動に移せるような情報提供への転換を図ったのです。

テレビのニュースなどで「命を守る最善の行動」という文言を聞いて、思わずドキッとしたという方も多いことでしょう。中には「そんなオーバーな」と思った方が



いらつしやるかもしれません。あえてこのような文言を取り入れたのは万一の発災時に、それも一分一秒を争うような場合には「公助」、つまり行政機関の助けを待つのではなく、住民一人ひとりの方に「自助」、すなわち「自分の命は自らが守る」ということを強く心にどめ、それを行動に移していただきたいという思いからでした。もともと、新しい情報提供についてはまだ周知が徹底されておらず、その表現についても住民の方から「分かりにくい」という声をいただいています。なので今後ワーキンググループで、その改善方法についてさらに検討を進めていきたいと考えています。

このように防災対策には終わりがなく、ここまでやれば「100点」というはつきりした基準も当然ありません。そのため、防災対策にはその時々状況に合わせて、常に見直しをすることが求められるのです。また、災害には予想外のことが起こるケースがあります。例えば2年前の7月に発生した「平成30年台風第12号」は、東海地方から西日本へと進んできました。一般に東進することの多い台風とは、ほぼ逆のコースをたどったのです。防災対策を考える上では、これを例外的なことだと片づけることはできません。今後こういったことが再び起こり得るとした上で、それまでの防災対策を見直していく必要があるのです。



2019年10月 台風19号による荒川の増水(埼玉県戸田市・東京都板橋区・北区)

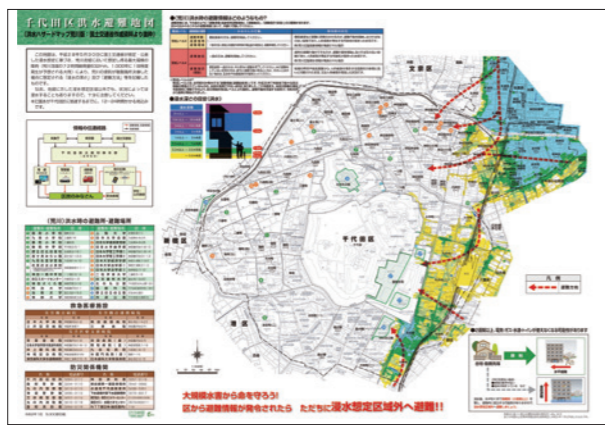


2019年10月 台風19号による田川の増水(栃木県宇都宮市)

「まさか」と思わない

毎年のように、全国各地で記録的な集中豪雨や台風による大規模災害が発生している昨今、防災について大切なのはいつどこで、何があってもおかしくないという意識を持つことです。「まさか」自分が住んでいるところは被害に遭わないだろうと油断せずに、想像を超える災害はいつでも起こり得ると肝に銘じ、万一のときの備えを日ごろから意識しておくことが肝要です。

自治体に問い合わせてください。分からないことをそのままにしておく、発災時に大きな支障となる危険性があります。そして万一の際には、先ほどお話しした「命を守る最善の行動」を含む5段階の警戒レベルに注意してください。こちらはテレビ、ラジオ、インターネット、スマートフォン、防災行政無線、広報車などで通知しています。



(例)東京都千代田区ホームページ:洪水避難地図(洪水ハザードマップ)

水害や土砂災害への備えの一つとして、自治体などが公表している水害ハザードマップや土砂災害ハザードマップを平時から確認しておくことを強くお勧めします。これらのマップを見ると、もし河川が氾濫した場合、自分の住んでいる場所が何メートルくらい浸水するのかをあらかじめ予測することができます。自宅だけでなく、職場や学校があるところにもどのような危険があるのか見ておくことも大切です。さらにハザードマップを活用すると、自分が行くべき避難場所がどこにあり、そこに行くにはどのルートを通れば安全かについて事前に検討することも可能です。

ところで、もしお住まいの地域に警戒レベル4の「避難」が発令されたとしても、必ず避難しなければならぬということはありません。例えば洪水浸水想定区域外の高台で、しかもマンションの高層階にお住まいの場合、避難場所に行かずにそこにとどまっている方がむしろ安全な場合もあります。その一方で、3階建ての

家でも大きな河川のそばにあれば、豪雨の際には最上階まで浸水する可能性があります。いずれにせよ、自分が住んでいるところはどういう場所か、もしものときにはどのような危険があるのかをハザードマップで事前にチェックしておくことが大切です。そして、発災時には早めの行動を取ることを心掛けておいてください。

地区レベルで防災対策

住民の方一人ひとりが防災意識を高め、万一の発災時に適切な避難行動を取れるようにするには今後、地域単位の防災計画が重要になると考えています。防災計画には、国が定める防災基本計画があり、次に都道府県の方針、そしてそれぞれの地域特性に即して市町村が定めるものがありますが、東日本大震災以降、市町村の防災計画をさらに細分化したレベルで策定できる仕組みが制度化されました。

お住まいの地域でこのような地区レベルの防災計画が策定されていけば、例えばハザードマップへのアクセスが困難な方の支援を誰が行うか、そして一人で避難するのが難しい方には誰が避難を呼びかけ、安全な場所までどうやって誘導するのか、といったところまで決めておくことも可能です。このような地区レベルの防災計画

の策定には、やはり目が行き届くという観点から、中学校区程度の単位での取り組みが理想と考えています。

ところで万一の発災時に、こういった計画をスムーズかつ安全に遂行するにはリーダーとなる人材の存在が不可欠です。これについては住民の方よりも、それぞれの地域で防災行政を担当する自治体職員のレベルアップを図ることがベターと考えています。そのため2013年より、内閣府では地方自治体の職員を対象とした防災スペシャリスト養成研修を実施しています。これまで首長や一般の防災担当職員のサポートを数多く行ってきましたが、今後は各自治体の防災危機管理の責任者である危機管理監に対する研修を強化していきたいと考えています。

内閣府では住民の方を対象とした防災対応のバックアップも行っていますが、まずは自治体職員の資質向上が重要と思っと思っています。なぜならいざというときには、指示系統をつかさどる自治体がかつかり機能しなければならぬからです。そのためにも危機管理監をはじめ、できる限り多くの自治体職員が防災の知識を身に付け、住民の方と密な連携を取りながら災害に強い地域をつくっていただきたいと思っています。内閣府ではそのためのサポートを、しっかりと行っています。

南海トラフ地震

ここまで水害や土砂災害についてお話ししましたが、ここからは地震災害についてお話ししたいと思います。先ほど日本ではいつどこで、どんな災害があってもおかしくないといわれていますが、それは地震についても同じです。その中で特に心配されるのが南海トラフ地震です。文部科学省の地震調査研究推進本部・地震調査委員会の長期評価によると、東海地方から九州にかけての南海トラフ沿いの地域において、マグニチュード8から同9クラスの地震が今後30年以内に起こる確率は70%から80%とされ、大規模地震発生の切迫性が指摘されています。

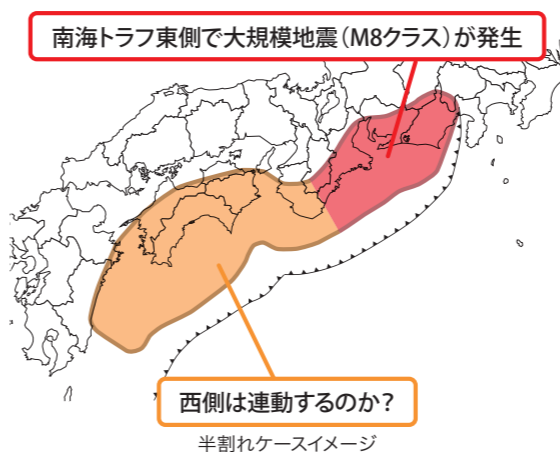
このような状況を踏まえて、内閣府では昨年「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン（第1版）」を公表しました。これは、今後大規模地震の発生可能性が平常時と比べて高まったと評価された場合に、自治体や企業、住民の方が防災対応を取る際に参考となる事柄をまとめたものです。

現在、大規模地震の発生可能性が高まったと評価できるケースは「半割れケース」「二部割れケース」「ゆっくりすべりケース」の3通りが考えられています。このうち、大規模地震が続いて発生する可能性が最も高いのが半割れケースで、これは想定域内の東側あるいは西側でマグニチュード

8を超える大規模地震が起こるといわれています。万一この半割れケースが東西のど

ちらかで発生した場合、震源地付近の地域を中心に非常に強い揺れと高い津波が起こることが予想されます。そして、地震が起きていない側でも後発地震に備えて、その後一週間程度は厳重警戒態勢が必要となり、該当する自治体は津波からの被害を防ぐために、沿岸部住民に対する避難勧告などを発令することが求められます。

ちなみに過去100年間にける半割れケースの大規模地震には、1944年に起きた熊野灘沖を震源とするマグニチュード8.2の昭和南海地震と、その2年後に発生した紀伊半島沖を震源とするマグニチュード8.4の昭和南海地震の二つがあり、いずれも千人を超える甚大な人的被害が生じています。



一部割れとゆっくりすべり

次に一部割れケースですが、これは半割れケースより一回り小さいマグニチュード7クラスの地震です。同クラスの海溝型地震は、過去100年間に数回程度発生しており、いずれの場合も大きな被害は出ていません。もし今後一部割れケースが発生した場合、企業や住民の方は、地震への備えの再確認などを中心とした防災対応を取ることが求められます。

三つ目のゆっくりすべりケースとは、ひずみ計などで有意な変化としてとらえられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような、通常とは異なるゆっくりとしたすべりが観測された場合のことです。このケースでは揺れを感じることはなく、また津波も発生しません。この場合も交通インフラやライフラインなどは通常通りに活動を続け、企業や住民の方には一部割れケースと同様の防災対応を取ることが求められます。

以上、「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン（第1版）」の内容をかなり駆け足で紹介しました。もっと詳しく知りたいという方は、内閣府の防災情報に関するホームページをご覧ください。

また、地震への備えについては各自治体独自の取り組みを行っていて、東京都でも「地震に関する地域危険度測定調査」



BCPの策定が急務

南海トラフ地震、あるいはこちらも今後30年以内に高い確率で起こると予測されている首都直下型地震といった大規模地震への備えとしては、行政機関と民間企業との連携がより一層重要になると考えています。

ありがたいことに、ここ数年の間に災害対策基本法に基づく指定公共機関と災害対応に関する連携協定を結ぶ民間企業の数が大幅に増え、現在その数は80社を超えています。昨年には移動体通信大手のNTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、航空旅客運送などの日本航空と全日空、そして物流最大手のイオンの計社と協定を締結しました。

民間企業の災害への備えとしては、BCP（事業継続計画）の策定にもご尽力

いただきたいと思います。もし地震や台風などによって大災害が発生し、多くの企業の生産拠点や流通経路がその被害を受け、それぞれの事業の継続に支障をきたしたら日本経済は極めて大きなダメージを負うこととなります。大企業であれば、すでに備えをしっかりと行っているところも多いでしょうが、中堅・中小企業の場合にはそこまでなかなか手が回らないというケースも多いと思います。

内閣府でも中堅・中小企業のBCP策定状況の確認を大変重要な課題ととらえ、経済産業省、そして産業界とも連携しながら今後、その状況の把握に力を入れる必要があると考えています。

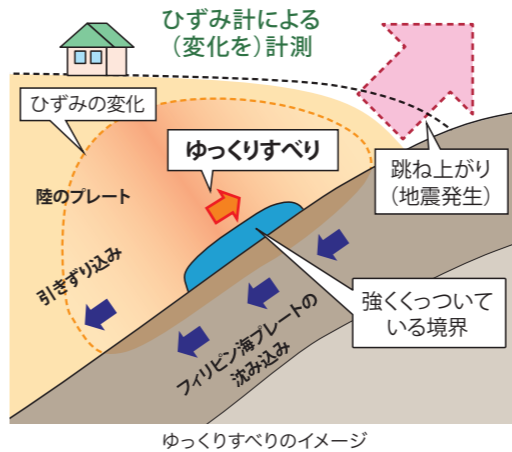
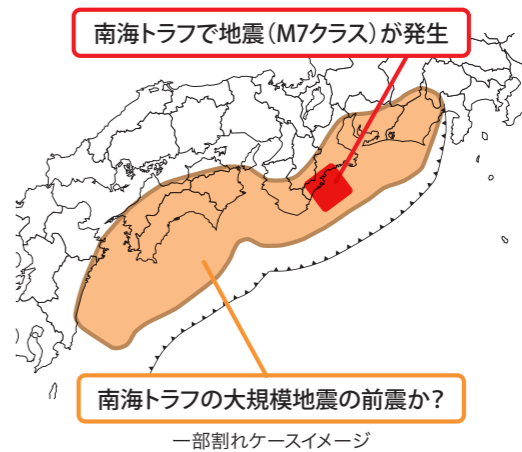
できることから始める

繰り返しになりますが、記録的な集中豪雨や大型台風、大規模地震などの想像を超えた自然災害はいつ、何時、どこで起こるか分かりません。ですから「備えあれば患いなし」というように、考え得る事態に対して日ごろから備えを行うことが何よりも大切です。内閣府においても今後、防災対策の見直しを絶えず行っていく予定です。そして住民の方にも、今まで以上に想像力を働かせて、防災に関する意識を高めることをお願いしたいと思います。

これまで何もなかったから、あるいは大きな被害を受けなかったから、自分が住んでいるところは安全だと思ってしまうのは、相手が自然なのだからいつどうなるか分からないというスタンスで災害に備えるようにしてください。その備えとしては、お住まいの自治体のホームページなどで各種ハザードマップを確認する、防災用品を用意する、日ごろから気象情報をはじめとする自然災害に関する情報に関心を持つ、家屋の耐震補強をするなど、さまざまなかことが考えられます。

また、ご近所さんとのコミュニケーションを、今まで以上に密にしておくことも大きな意味があります。防災においては地域の結束力が大変重要であり、そのためには普段の人間関係を良好にして

の結果がホームページやパンフレットなどで公表されています。こちらでは町丁目ごとに建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度、総合危険度が数字で表されているので、東京都にお住まいの方は万一の発災時への備えとして、ぜひ一度目を通していただきたいと思います。



おくことが望まれます。これは民間企業についてもいえることです。企業経営者の方も一住民として、地域の方々と互いに協力しあうという心構え、すなわち「共助」の意識を持っていただきたいと思います。

防災対策は、思い立ったが吉日です。何も難しく考える必要はありません。できることからですので、今すぐにも備えを始めてください。万一の発災時には防災情報に耳を傾け、できるだけ早めの行動を心掛けてください。そして「自分の命は自分が守る」ということを、決して忘れないでください。これが皆さんが無事であるために、最も重要なことなのですから。

内閣府 防災情報ホームページ
<http://www.bousai.go.jp/>

玉巻 俳優でありロックバンドのボーカリストでもある松岡充さんは季語の辞典をお持ちで、海外ロケにも持参されたことがあるそうです。お題に対して100句ほど

—なるほど。ところで出演者の方は、お題について普段から勉強されているのでしょうか？

玉巻 俳優でありロックバンドのボーカリストでもある松岡充さんは季語の辞典をお持ちで、海外ロケにも持参されたことがあるそうです。お題に対して100句ほど

—「プレバト!!」の魅力とは？
玉巻 「教養バラエティ」として楽しみながらいろいろな事を学べることです。バラエティ面の魅力は、出演者の方のさまざまな表情が見られること。番組では俳句などの才能が「アリ」「凡人」「ナシ」というようにランキング形式で発表されるのですが、その際祈るような顔を見せたり、立ち上がってガッツポーズをとったり、あるいはじだんだを踏んだりと出演者の方の思い掛けない一面をご覧いただけます。—教養面についてはいかがですか？

★楽しくてためになる



©MBS

バラエティもニュースも、
自然体のわたしで。

Eimi Tamamaki

毎日放送 アナウンサー

たま まき えい み

玉巻 映美さん

大阪府出身 早稲田大学卒業 2015年に毎日放送入社

現在『プレバト!!』(木/午後7時~)、『News ミント!』(月~金/午後4時30分~(木・金曜日担当))などに出演中

俳句や生け花、消しゴムはんこなどのお題に多彩なゲストが挑む人気番組『プレバト!!』(大阪・毎日放送制作)に、浜田雅功さんのアシスタントとして出演中の玉巻映美アナウンサー。地元の関西の報道番組でも活躍する玉巻さんに、番組や仕事への思いを伺いました。



『プレバト!!』ホームページ

<https://www.mbs.jp/p-battle/>

『News ミント!』ホームページ

<https://www.mbs.jp/mint/news/mint/news/>



©MBS

—出演者の方の個性が浮き彫りになるのも興味深いですね。

玉巻 そうですね。東国原英夫さんの句には時事問題を詠んだものが多く、千原ジュニアさんは意外にも、お子さんを題材とした温かみのある句をたくさん詠まれています。番組にご出演いただいている俳人の夏井いつき先生はよく、「良い句には

—自身も俳句を詠まれるのですか？
玉巻 出演者の方の苦労を知るために、スタッフサイドでも俳句をつくって先生に添削していただくことがたまにあるのですが、わたしはまだ残念ながら、先生に提出するまでには至っていません。それでも『プレバト!!』に出演するようになってからは日常生活の中で、「何を、何を感じ、それをどうやって表現すべきか」ということに敏感になったように思います。
—例えばどんなことですか？
玉巻 普段道を歩いても、それまであまり気づかなかつた草花に目がいくようになり、その営みに触れたときの心の動きをどのように表せばよいかについて、自分なりに突き詰めて考えるようになりました。短い時間での確に表現するというのは、アナウンサーの仕事にも通ずる点だとも思います。日々の生活においても仕事においても、小さな変化に気づくアンテナを持つことを意識するようになりました。
—俳句に親しむと、日本語の表現の豊かさに気づかされることもありますよね。
玉巻 そうなんです。例えば、春の山の明るい様子を「山笑う」というように、季語には四季折々のすてきな表現が数え切れないほどたくさんあります。だから俳句に親しむことで、アナウンサーとしての言葉や表現の引き出しも増えるのではないかと考えています。



【インタビュー写真】 Photographer 中島 真 (STUDIO 713)



©MBS

★浜田さんのイジりに赤面

「『プレバト!!』に出演されて今年で2年目ですが、いつも番組を楽しんでいますね。」

玉巻 最初の収録時に司会の浜田雅功さんに背中をポンと叩かれて、こういわれました。「何や、緊張してるんか？ きみは番組を素直に楽しんで、面白かったら笑ってたらええんや」と。そのとき、肩の力がふつと抜けたのをよく覚えています。それから段取りをしつかり頭に入れて番組を進行しつつ、その一方で楽しむことも仕事だと思って収録に臨んでいます。そのため、番組では各先生方のお話に大きくうなずいたり、手を叩いて大笑いしたりと、素に近い自分が出ていると思います(笑)。

「近くでご覧になっていて、浜田さんはどんな方ですか？」

玉巻 とても優しい方です。以前、出演者の方が軽く咳をされたことがあり、そのとき浜田さんがさつと水を渡されたことがありました。そのような気遣いを当たり前のようにできる方です。また、収録を観にこられたお客さまを楽しくイジってライブ感を演出されるなど、みんなが二つになつて番組をつくっていくという気持ちで常に大切にされています。さらに驚いたことに、浜田さんがぼそつとつぶやいたことが、先生方の解説を先取りしている



©MBS

ことがあるんです。だからこれからは、浜田さんの何気ない一言にも注目して、『プレバト!!』をご覧いただきたいです。そうすれば番組がもっと面白く、もっと興味深くなると思います。

「とても愉快なハプニングがあったそうですね。」

玉巻 出演し始めて数回目の収録で、梅沢富美男さんを「富美沢・梅男さん」とお呼びしてしまったことがあり、そのときは顔から火が出るほど恥ずかしかったです。さらにその後、番組の中で浜田さんがことあるごとに「梅男！」「梅男！」と叫ばれて…。梅沢さん、あのときは本当に申し訳ありませんでした。

★きつかけは祖父の一言

「アナウンサーを目指したきつかけは？」

玉巻 祖父のひと言がきつかけです。わたしは幼いころから、父の仕事の都合で東京やニューヨーク、ボストン、香港などを転々としていたんです。27年間に16回も引越をしました。そんなわたしに、祖父が「お前はどこにいても言葉を話すことができるから、アナウンサーになれ」といったんです。確か中学2年生のときでした。

「おじいさまとの約束を果たされたわけですね。毎日放送に採用が決まったときはいかがでしたか？」

玉巻 「これは夢？」といった感じでした。うれし泣きする母の声を聞いて、じわじわ

★自分視点で「ニュースを

報道番組にサブキャスターとして出演されていますね。」

玉巻 平日の夕方に関西圏で放送されている『News ミント!』という番組です。この中で「ニュースの数字」というコーナーを担当していて、これは数字を切り口に世の中の動きをひもとくというものです。

「『プレバト!!』とはまったく違うタイプの番組です。」

玉巻 昨年の4月から出演しているのですが、当初は自分に報道番組のサブキャスターが務まるのだろうかと不安ばかり感じていました。経験や知識が少なく、正直、分からないこともまだ多いですからね。だからといって知ったかぶりをして意味がないと割り切り、それから背伸びをしないことを意識してサブキャスターの仕事に取り組んでいます。知ったかぶりをして視聴者の方にはすぐに見透かされるでしょうし、それならば20代後半の人間ならではの視点から「ニュースを伝えた方が、テレビをご覧の方に「なるほど」と思っていただけなのではと考えたのです。」

「現場での取材を大切にされているそうですね。」

玉巻 可能な限り、何かが起きている現場に自ら赴き、そこでいろいろな人から

★将来は仕事も子育ても

「今後の目標は？」

玉巻 バラエティであれ報道番組であれ「やはり玉巻でない」と視聴者の方からもスタッフからも信頼される存在になることですね。また昨年結婚したのですが、将来は仕事と子育てを両立できる女性になりたいと考えています。アナウンサーの先輩には、ママさんアナウンサーとして活躍している方がたくさんいて、相談できる人が多いのはとても心強く感じています。

「最後に、座右の銘を教えてください。」

玉巻 「起こることはすべて意味がある」です。何かにチャレンジして思い通りにいかなかったとしても、ただ落ち込むだけでは意味がないと思うのです。そうではなく、うまくいかなかったのには何か意味があると考えれば、その原因、つまり自分に足りなかったものが見えてくる。そして、その足りなかったものを補えば、次はきつと自分の思い描いた未来をたぐり寄せることができる。わたしはいつもこのように考えて仕事に取り組むようにしています。これからもっと大きな試練が訪れると思います。そのときにも、それには何か意味があると思えば知恵と勇気がわき、苦難を乗り越えられる。そう信じて、これからもアナウンサーの仕事に進んでいきたいと思っています。

スピード感を持って着実に、ふるさとの復興に取り組む。

昨年10月の「令和元年東日本台風」は、日本各地に大きなつめ跡を残しました。長野市でも多くの家や店舗が倒壊した千曲川が堤防決壊し、全壊872件、床上浸水1,514件という大災害に見舞われました。そのとき長野市はどう動き、どのように復旧に取り組んだのか。采配を振るった加藤久雄長野市長に聞きました。

〈聞き手〉本誌編集長 小松 宣俊



「令和元年東日本台風」による千曲川の氾濫で甚大な被害のあった長野市



長野県長野市長
かとう ひさお
加藤 久雄氏

【プロフィール】

1942年生まれ 長野市出身
1965年に早稲田大学第一政治経済学部を卒業後、企業経営や長野商工会議所会頭などを経て2013年に長野市長に就任し、現在2期目
好きな言葉は「挑戦また挑戦」
【長野市ホームページ】<http://www.city.nagano.nagano.jp/>



千曲川の堤防決壊

「令和元年東日本台風」は記録的な大雨により、長野市に甚大な被害をもたらしました。市内を流れる一級河川、千曲川の堤防決壊による浸水の模様をテレビのニュース映像などでご覧になった方も多いと思います。今回、このように当時の状況を振り返る機会をいただいたことは、長野市の今後の防災対策を推進する上で大きな意味があると考えています。また長野市の経験が、ほかの自治体の防災対策の一助となれば幸いです。それでは当時の状況を時系列で振り返りたいと思います。大型台風の接近に伴い長野市が初動体制に入ったのは、昨年10月8日のことでした。その後、12日は土曜日で閉庁日でしたので、前日の11日午後4時には、12日の午前9時から全職員に自宅まで待機するように命じ、災害に備え職員配備体制を整えました。私は市役所内の災害対策本部室に詰め、長野市地方気象台長、県知事、千曲川河川事務所長とホットラインで互いに連絡を取りあい、職員とともに刻々と変わる気象状況の把握に努めていました。

午後4時20分、市内に土砂災害警戒情報が発表されたことから、市災害対策本部を設置するとともに、災害が予想される地域に避難勧告・避難指示を発令しました。

午後9時半ごろ、市内の若穂保科地区で土砂崩落が発生して孤立集落が生じると、県知事へ「自衛隊の災害派遣要請」を行うとともに、消防



局に各地域を回って住民の方の避難を促すよう指示しました。

日付が変わった13日の午前2時過ぎ、千曲川の堤防に決壊の恐れがあるという情報が入ると、私が直接、防災行政無線で住民の方に避難を呼びかけるとともに、携帯電話のエリアメールにも私の名前で避難情報を発信しました。これは一刻を争う状況であるということ、住民の方に伝えるための措置でした。堤防が決壊したことを知ったのは、午前7時ごろのことでした。最悪のシナリオを予想して県を通じ、前日に自衛隊、海上保安庁、警察等に出動を要請していたため救助活動が早朝から可能となり、ヘリコプターによる救助者約370名を含め、約1,600名の住民の方を救助することができました。



お役所仕事はNG

避難所は12日の夜に市内の54カ所に設置し、その日のうちに6千名を超える住民の方に避難をしていただきました。水や非常食、毛布といった防災備蓄品も各地域の防災備蓄倉庫から各避難所に配布し、また災害時応援協定を結んでいる事業者さんに、避難所にいる方全員分の食事を届けていただきました。国からもプッシュ型支援として、段ボールベッドなどが早い段階で送られてきました。



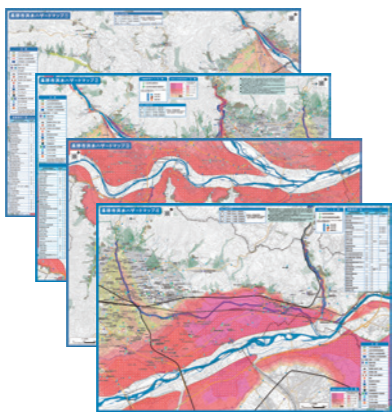
各避難所には責任者を常駐させ、その職員には裁量権を与えました。避難所内は混乱し、住民の方は大きな不安やストレス、家を失ったことによる喪失感を抱えていらっしゃいます。時には急を要することも起こり得ます。そんな非常時に、マニュアルに従い機械的に物事を進める「お役所仕事」はまったく意味をなしません。そのため、私が特に信頼している職員を責任者に任命し、彼らに「自分がよいと判断したことは、その場ですぐ実行してください。決裁を仰ぐ必要はありません。責任はすべて私が取ります」と指示したのです。

それと同時に住民の方の状況を把握できるように、「A区画の何番の〇〇さんご一家」というように避難所内に「住所」をつくりました。その上で一軒一軒の家族構成、被災状況、居住履歴などを聞き取ってリストにまとめ、避難所にいる職員誰もが情報共有できる体制を整えたのです。このような取り組みによって、さまざまな要望にスピーディに対応することができ、その結果職員と住民の方との間に信頼関係が生まれ、良好な避難所運営が図れたのではないかと考えています。

イベントも続々

手前味噌かもしれませんが、今回の災害対応を振り返ると日ごろの取り組みが功を奏したと思うことが幾つかあります。長野市では市内各地区で避難訓練を定期的に行っていました。また、各地区の防災備蓄倉庫に各種防災備蓄品を用意し、それらを各避難所に遅滞なく届けるシミュレーションも行ったので、54あるすべての避難所への避難と防災備蓄品の配達が比較的スムーズにできたと考えています。

洪水ハザードマップを作成して8月の時点で配布していたことも、住民の方の防災意識を高める契機になったのでは、と考えています。もっとも「犠牲者ゼロ」を目指しながら、2名の方の尊い命を救うことができなかったのは痛恨の極みです。



洪水ハザードマップ

現在の一番の課題は、住民の方の生活再建のフォローと心身のケアを充実させていくことです。それにはやはり、明確な目標設定とスピード感が必要と考えています。復興に向けた長野市の姿を広く発信していくことも重要です。被災直後は「善光寺も土砂で埋まった」という風評が立ちました。その払拭のためにも、お寺を美しい光で彩る「善光寺

避難所では健康管理も重要な問題となるため、早くから市の医師会、歯科医師会、薬剤師会、県の柔道整復師会と連携して住民の方の心身のケアに取り組みました。日本赤十字社やDMAT（災害派遣医療チーム）からもご協力をいただきました。食事については業者さんと相談し、栄養バランスの取れたお弁当の提供に努めました。また、65歳以上の方にはインフルエンザの予防接種を無料で行いました。

全国からボランティア

13日からは復旧に向けた取り組みを本格的にスタートさせました。電気とガスの復旧に、それぞれの事業者さんに総動員で当たっていただいたのです。そして通行止めとなっていた国道18号線を15日に開通させるなど、交通網の整備復旧に全力を尽くしました。またトイレを早く使えるように、泥に埋まった下水施設の応急復旧を行い、住民の方の生活がある程度落ち着くまで上水道・下水道料金の免除措置を施しました。学校については小学校が1校、中学校が2校浸水したため、それぞれ代替校での授業を実施し、避難所から歩いて通学できない児童・生徒にはバスやタクシーでの送迎を行いました。

復旧の大きな妨げとなる災害廃棄物の処理にも、スピード感を持って取り組みました。水が引き始めると、住民の方の同意をいただいた上で中核市、自衛隊、環境省との連携を通じて24時間体制で、さまざまな物が混在している災害廃棄物を分別して公園や野球場などに運びました。これら廃棄物の受け入れには現在も、三重県と富山県のご協力をいただいています。

今回の被災では長野市が誇る果実栽培も大きな被害を受けました。収穫期を迎えたイルミネーションを今年の2月から3月にかけて開催し、多くの方にお越しいただきました。また、昨年中止した花火大会「長野えびす講煙火大会」を今年は実施する予定です。東京2020オリンピック関連のイベントでは4月2日に聖火リレーを行い、開会式前日の7月23日にはその前祝いとして、善光寺の鐘を鳴らす行事を予定しています。この鐘は1998年の長野オリンピックの開会を告げたものです。このように長野市では復興に向けて、さまざまな取り組みを行っています。



善光寺イルミネーション

6つの心構え

まとめとして、このたびの経験を通じて私が感じた、発災時に求められる6つの心構えについてお話ししたいと思います。

一つ目は「慌てふためかないこと」。企業経営時に何度も危機を経験しましたが、上に立つ者が焦ったところで事情が好転する可能性など一つもありません。それは発災時と同じです。ピンチであればあるほどリーダーにはほとんど構え、状況を冷静に把握する胆力

リングが水に浸かっている様子を、ニュース映像などでご覧になった方も多いことでしょう。このような報道のおかげもあって全国から7万名を超えるボランティアの方にお越しいただき、皆さまには被災住宅の廃棄物搬出や清掃なども含めて多大なご協力をいただきました。

避難所の運営終了

災害復旧を進める際に心掛けたのは、期限を決めることでした。早くやることも大切ですが、いついつまでにするという目標を設定すれば、職員はもとより住民の方も「次に向かおう」という強い意志を持つことができると思います。

例えば、すべての避難所を11月末に閉鎖することを早くから周知しました。そして、最初54カ所あった避難所を少しずつ減らし、最終的には1カ所に集中し、12月20日で避難所の運営を終了したのです。食事の提供も段階的に減らし、朝食のみ、最後には朝食もなしというようにしてきました。そうすることで住民の方の自立を促したのです。もちろん、期限までにアパートなどのみなし仮設住宅や、公営住宅へご入居いただける体制を整えておきました。避難所の運営終了については反対の声もありましたが、住民の方のプライバシー保護や生活再建のために、また職員の負担軽減のためにも最善の策だったと考えています。

とはいえ、これは簡単にできることではありませんでした。住民の方の被災状況や生活状況はそれぞれ異なります。職員は話し合いを粘り強く続けることで、最終的にすべての方の同意をいただいたのですが、このやりとりを支えたのはやはり両者の間に築かれていた信頼関係だと思っています。

二つ目は「今やるべきことはスピード感を持ってやること」。お風呂に入りたいとか、洗濯をしたとか、避難所の職員にはさまざまな要望が寄せられます。そういったリクエストにはスピード感を持って対応することが肝要です。物理的に無理なことは仕方ありませんが、そうでないことには頭と体を使い、今すぐ取り組むことがトラブルの抑制につながります。

三つ目は「災害廃棄物を早く処理すること」。災害廃棄物の放置は復旧の妨げとなり、住民の方の気持ちの切り替えにも支障を及ぼします。ですから、できるだけ早く処理するのが理想です。

四つ目は「避難所に優秀な人材を配置すること」。先ほどもお話ししたように、避難所の運営には「お役所仕事」では対応できない難問が山積しています。その解消には、コミュニケーション能力と人の気持ちに寄り添う共感が欠かせません。これらをしっかりと備えた上で、さまざまな判断を的確に行い、それを即座に実行に移せる人材が円滑な避難所運営には不可欠です。

五つ目は「トップが現場に行くこと」。千曲川の堤防決壊当日から連日、被災現場や避難所に赴きました。そしてできるだけ、住民の方の声に耳を傾けました。また、復旧に携わる方に感謝とねぎらいの言葉を掛け続けました。このように首長が先頭に立つて現場に行くことは、職員の士気を鼓舞するためにも大切と考えています。

六つ目は「目標を設定・明示すること」。ロードマップをつくり、それを明示すると人は必ず動きます。目標達成のために何とかなければと思ひ、知恵を振り絞るものです。6つの心構えの中では、これが一番重要なものかもしれません。

長野市へようこそ



このたびの被災で、長野市は数え切れないほど多くの方のお世話になりました。日本各地からお越しいただいたボランティアの方、自衛隊の方、長野県や近隣市町村の方、他府県の方、政府の方、災害時応援協定を結んでいる事業者の方、医療機関の方そして市民の方、皆さまの献身的なご支援により、長野市は着実に復興への歩みを進めています。本当にありがとうございます。

これからは、旅行で長野市にお越しいただければと思います。わが長野市には善光寺を筆頭に数多くの神社仏閣、城跡などの名所があります。リングやマスカットなど多彩な果実のほかにも、そばや野沢菜漬、肉料理といった名物がたくさんあります。また、豊かな自然に恵まれた長野市は温泉やスキー、スケートを楽しめ、避暑にもぴったりの所です。

次に長野市にお越しになる時はぜひ、わがまちの魅力を満喫ください。そうしていただくことが私たちの一番の支えになります。皆さまのお越しを、心よりお待ちしております。



戸隠スキー場

長野びんずる祭り

真田十万石まつり

ING 読者プレゼント

『皮ごと食べられる種なしブドウ』

長野県のオリジナル品種「ナガノパープル」と甘味が強く香り高い「シャインマスカット」の詰め合わせ(5,000円相当)

5名様にごプレゼント

※当選者への発送は9月中旬以降になります。写真提供:JAグリーン長野

Web版読者の方はご応募いただけません



開場当時の13番ホール

改修を経て開場当時を彷彿させる13番ホール（改修後イメージCG）

神戸の名士たちに愛され続ける「廣野ゴルフ倶楽部」を訪ねる

名設計家・アリソンが手掛けた「**原点**」今に**よみがえらせる**



兵庫県三木市

廣野ゴルフ倶楽部

支配人 高塚 勝久氏

「東洋のパー5」と称された15番ホールもかなりの難所だとか？

15番は開場以来長らく、ツォンするプレーヤーがいなかったとされる極めて難しいホールです。1963年に、かのジャック・ニクラウス氏がツォンしたときは称賛の声が渦巻いたと、会員の間でも語り草になっています。

倶楽部の伝統はどんなところにあるとお考えですか？

やはり会員の自主性がしっかり守られている、ということに尽きます。

こちらのコースの特徴を教えてください。

18のホールがそれぞれ異なる趣を持っているため、一度コースを回るだけで、各ホールの面白さを鮮明に思い出すことができます。それは言い換えれば、各ホールがとても戦略的ということであり、今回の改修でその面白さにさらに磨きがかかっております。中でも5番、7番、13番、17番の4つのショートホールと、急な傾斜を持つ14番ホールではひととき高い戦略性が問われ、難しい反面、どこに打てばよいのかを考える楽しみを存分に味わえると思います。また、改修によって13番ホールに開場当初のティーグラウンドを復活させ、これにより2つのティーグラウンドを設けています。

最後に、高塚支配人お薦めのホールを教えてください。

先ほど少しお話しした、ショートホールの7番です。こちらのホールでは、なかなかワンオンしないのです。右の方に打つとバンカーに捕まってしまうため、左に逃がそうとしてもうまくいかない。あくまでもわたしの場合ですが（笑）。このように

例えば、弊倶楽部では休憩時間後のスタートは会員の自由意思に任せ、こちらから「何分後にお願います」といった要請は一切行なっていません。また、プレーの責任は自らが負うことが原則とされています。キャディは用具を運ぶサポートを行うだけで、グリーンライン読みやバンカーならしなどは各プレーヤーの責任のもとで行うという認識が会員の間で共有されているのです。「倶楽部は社交場」という考えから、プレーにふさわしくない服装を控えるドレスコードもしっかり受け継がれています。

今後、伝統の継承には若い力が不可欠と思うのですが？

弊倶楽部でも、ジュニア世代の方にゴルフに興味をお持ちいただくことが重要と考えています。そのため取り組みとして、会員の子息にゴルフの楽しさをご体感いただけるよう、年に一度、ご家族の方を対象としたファミリーコンペを開催しています。



人力で造成されている18番ホール

昭和の初めごろ、神戸周辺にはすでに鳴尾ゴルフ倶楽部や、垂水ゴルフ倶楽部の前身である舞子カントリー倶楽部といったゴルフ場が存在していました。しかし、それだけでは飽き足らない神戸の財界人が18ホールの新しいコースをつくらうと、神戸の近くで土地を探していたのです。ある日彼らが紹介された三木の奥の土地を見に行く途中、現在の広野辺りを通りかかったとき、豊かな緑と水に恵まれ程よい起伏のあるこちらの地形を大変気に入った。「ここにゴルフ場をつくらう」ということになりました。それから土地の買収や造成が進められ、1932年（昭和7年）に廣野ゴルフ倶楽部が誕生したのです。もちろん当時は現在のように重機がないため、人力でコースづくりが行われたと聞いています。もともとこちらの土地は、旧三田藩主である九鬼隆輝子爵の所有地でした。

コースの設計は英国人のアリソン氏ですね。

設計家のチャールズ・ヒュー・アリソン氏もこちらの地形に惚れ込み、ここなら超一流のコースをつくることできると確信したそうです。事実、米国のゴルフ雑誌『ザ・ナショナル・ゴルフレビュー』が掲載した1939年当時の世界トップ100コースランキングで、弊倶楽部は7位にランクインしています。1位はスコットランドのセント・アンドリュースで、上位圏には米国・カリフォルニアのペブルビーチなど世界的なコースが名を連ねています。ところで、アリソン氏はアゴの出た深い「アリソン・バンカー」で有名ですが、実際にアリソン氏が設計したアリソン・バンカーが日本に現存するのはこちらと、川奈ホテルゴルフコースの2箇所のみと聞いています。

改修工事が行われました。

「原点回帰」、つまりアリソン氏が設計したコースを再現するための改修が行われました。太平洋戦争中に農場に転用されたことなどから、戦後に再建されたコースはオリジナルと少し異なるものとなっていました。そのため以前から、会員の間でコースを原点に戻そうという動きが高まっていたのです。また、今回の改修では耐暑性に優れたグリーンへの転換も行っています。



7番ホール Devil's Divot



5番ホール Fiord

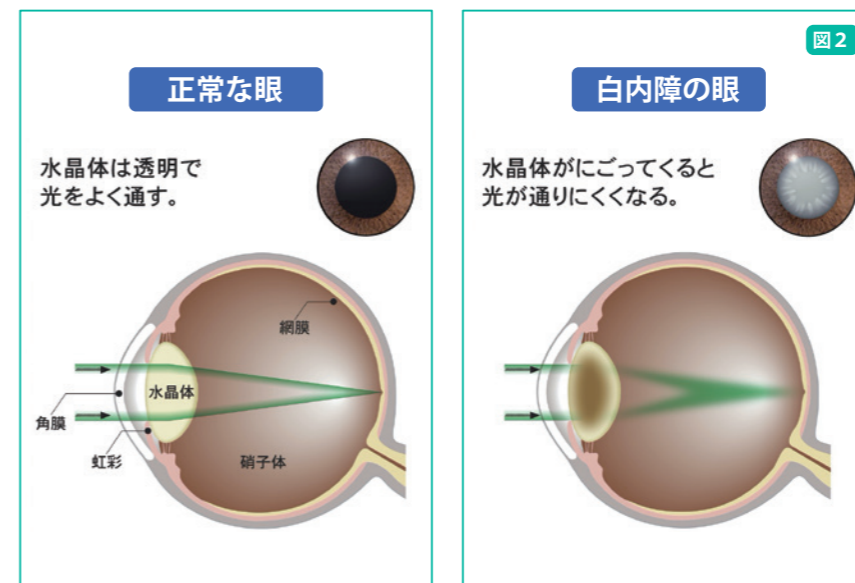
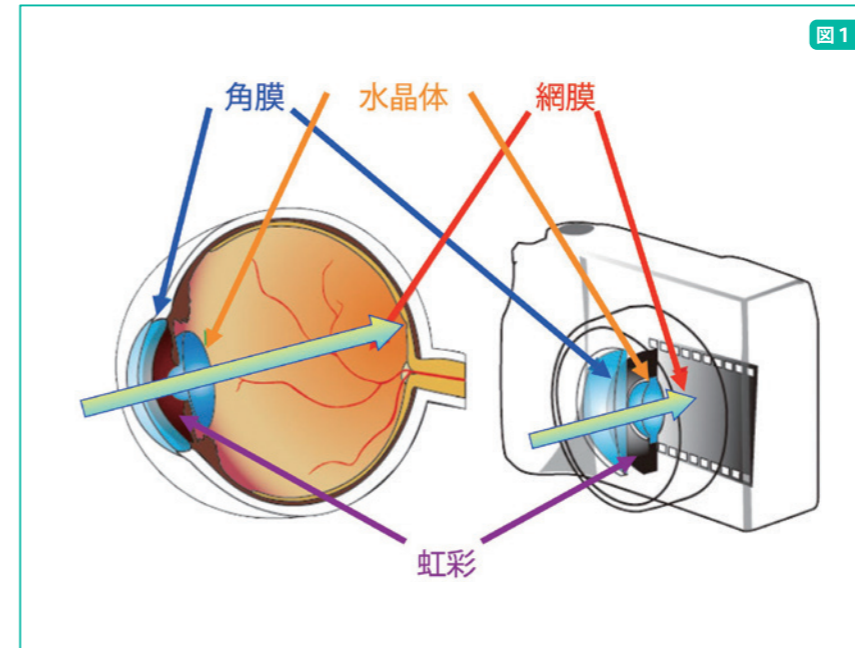
今回の改修の担当者は？

R & A（ロイヤル・アンド・アン・セント・ゴルフ・クラブ・オブ・セント・アンドリュース）に所属する会員にご紹介いただいた英国人設計家、マーティン・イバート氏にデザインを依頼しました。彼はアリソン氏が描いた設計図や戦前の写真と、戦後間もないころに撮影された航空写真やドローンによる最新の測量データとを比べてコースの変遷を明らかにすることで、丁寧かつ緻密にオリジナルへの回帰を実現してくれました。



Hirono Golf Club
廣野ゴルフ倶楽部
〒673-0541 兵庫県三木市志染町広野7-3
TEL.0794-85-0123 FAX. 0794-85-9331

白内障について



六本木 柴眼科 院長
日本白内障屈折矯正手術学会 理事

しば たく や 柴 琢也 氏

経歴
 1994年 東京慈恵会医科大学卒業
 国立病院機構東京医療センター
 臨床研修医
 1996年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 助手
 2002～2003年 フランス国立パリ第6大学附属
 眼科病院 研究員
 2007年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 講師
 2014年 東京慈恵会医科大学附属第三病院
 眼科 診療部長
 2017年 東京慈恵会医科大学眼科学講座
 准教授
 2019年 六本木 柴眼科 院長

白内障とは

眼に入ってくる光や映像は、角膜、水晶体と呼ばれる2つのレンズを通して眼の奥の網膜に像を結び、その映像が脳に送られて物を見ることが出来ます。これらカメラに例えると、角膜や水晶体はレンズ、網膜はフィルムに該当します(図1)。正常な水晶体は透明に近くレンズとしての働きができますが、これが混濁することにより視機能の低下をきたす疾患を白内障といいます(図2)。

白内障の原因

白内障の原因は様々ですが加齢によるものが最も多く、瞳孔を開く検査(散瞳検査)で水晶体を観察すると、早い人では40代から、80代では大部分の人で白内障が認められます。その他の原因として、外傷、アトピー性皮膚炎、副腎

にすることはできません。白内障が原因で生じた不快な症状(視力低下、霧視、羞明など)を改善させ、視力を取り戻すためには、手術によって濁った水晶体を取り除き、眼内レンズという人工のレンズと交換する以外には方法がありません(図3)。



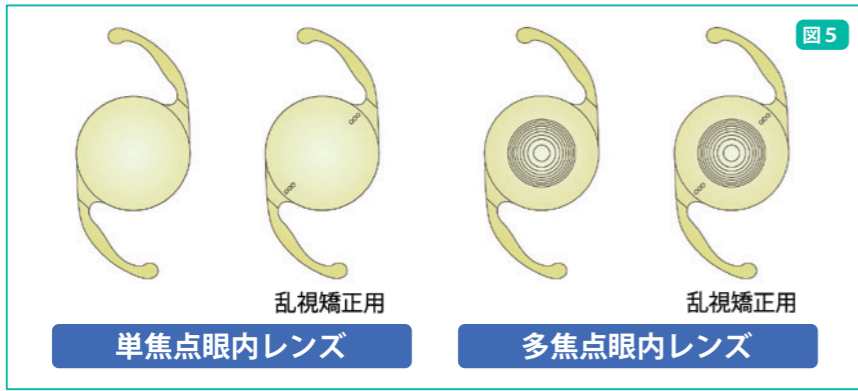
白内障の症状

白内障の症状には、視力の低下だけではなく、霧がかかっている(霧視)、まぶしい(羞明)、片目で物が二重に見える、などの症状があります。自覚症状の程度は、水晶体が濁っている部位と程度によって異なります。老人性白内障では、混濁が水晶体の周辺部から始まるため、初期には自覚症状が少なくあまり問題にはなりません。進行するにしたがつて霧視や羞明を感じるようになり、混濁が中央部にまでおよぶと視力低下が強くなります。それに対して若い人の白内障では、初期の段階から瞳孔の中央に混濁が生じることが多く、早い時期から自覚症状が出現します。また、視力が低下していないにもかかわらず、明るい光が入って瞳が小さくなると殆ど見えなくなってしまうことがあり、日常生活が大変不便になったり、自動車の運転が危険になったりする場合があります。

白内障の治療

白内障治療目的の点眼薬や飲み薬はありませんが、これらの薬は白内障の進行をある程度遅くさせるためのものであり、一度混濁した水晶体を再び透明





眼内レンズ(図5)
白内障によって濁った水晶体を摘出し、代わりに挿入する眼内レンズは、単焦点眼内レンズと多焦点眼内レンズの2種類があります。通常の白内障手術では、単焦点眼内レンズを使用することが一般的です。単焦点眼内レンズを挿入された眼では調節力(遠方・近方まで焦点を合わせる能力)のことで、

これが加齢と共に減弱するのが老眼(遠視)が失われるため、裸眼の焦点を遠方に設定すると近方を見るには老眼鏡が必要になり、裸眼の焦点を近方に設定すると遠くを見る時に眼鏡が必要になります。
白内障手術後に遠くも近くも眼鏡をかけないで見たいという要望にこたえるのが、多焦点眼内レンズです。多焦点眼内レンズは遠方と近方の両方にピンポイントが合うため、眼鏡に依存しない日常生活、またはメガネの使用頻度を減らすことが可能となり、生活の質を向上させることが可能です。通常の保険診療ではないので単焦点レンズに比べて自己負担額が増えます。
多焦点眼内レンズは、眼鏡なしで遠くも近くも見えるようになり、眼鏡から解放されたいと望む活動的な方が適応となります。ただし、現在の医療技術では必ずしも100%眼鏡から開放されるわけではなく、距離によって見にくい部分も出てくるため眼鏡が必要となる場合もあります。従来、国内で認可されている多焦点眼内レンズは2焦点(ピントが合うところ)でした。この場合は、遠方(5m以上)の焦点は共通ですが、近方焦点はいくつか選択できます。近くの焦点をどこに合わせるかについては、患者さんの仕事内容、趣味

経過と養生

通常の白内障手術では、日常の家事や散歩は術後3日目頃より可能であり、術後1ヶ月を経過すれば、ほぼ術前と同じ生活ができます。仕事の種類にもよりますが、重労働や極端に眼を使う仕事でなければ術後1週以内に職場復帰は可能です。
最近の白内障手術は大多数の患者さんにとって視力を回復することができ、安全な手術となりましたが、術後早期では虹彩炎や眼圧上昇など比較的早期に改善するものから、重篤な合併症としては細菌感染による眼内炎を発生することもありますが、手術後のケアが

とても重要です。

今から30年ほど前までは、混濁した水晶体の代わりに分厚い凸レンズの眼鏡やコンタクトレンズをつける必要がありました。現在では手術中に眼内レンズを安全に挿入することが可能となったため、術後快適な生活を送れるようになりました。
超音波乳化吸引術
水晶体の前側にある殻である前囊という薄い組織を丸く切り取って、中にある核と皮質を吸引して混濁を除去します。核は硬い組織であるため、そのままでは狭い場所から吸引することができなため、超音波で砕いてから細い管で吸引除去します。
濁った水晶体を吸引した後には、水晶体の殻である前囊の一部と後囊が残り、ここに眼内レンズを挿入します。この技術によって、現在では2mm前後の小さな切開のみで、手術を行うことができるようになりました。

従来の白内障手術は、術者が角膜や水晶体に術者の手で切開を加えていきます。そのためどんなに熟練した術者でも、切開創や水晶体に開ける穴の大きさが形に多少のばらつきは避けられません。フェムトセカンドレーザーは、フェムト秒(1フェムト秒は1000兆分の1秒)単位の赤外線レーザー光を連続照射することで、照射部位を光切断します。
従来は術者の手で行われていた切開創の作成、水晶体の殻に穴を開ける工程を、レーザーを用いて事前に設定した大きさと正確な位置に行うことができます。これらによって正しい位置に眼内レンズを固定することができ、眼内レンズの機能を最大限に発揮することが可能となります。
また、レーザーによって水晶体内の硬い組織を細かく分割することによって、超音波白内障手術装置の使用を最小限に減らすことができ、眼への負担を減らすことが可能です。さらに、角膜の乱視を減らすための切開も行うことができます。これらをコンピュータ制御下で安全かつ精密に、計画通りに手術を行うことができます。本手術装置は医療機器としての許認可を受けていますが保険診療では使用できないため、保険外診療での取り扱いになります。

フェムトセカンドレーザー 白内障手術(図4)

これが加齢と共に減弱するのが老眼(遠視)が失われるため、裸眼の焦点を遠方に設定すると近方を見るには老眼鏡が必要になり、裸眼の焦点を近方に設定すると遠くを見る時に眼鏡が必要になります。
白内障手術後に遠くも近くも眼鏡をかけないで見たいという要望にこたえるのが、多焦点眼内レンズです。多焦点眼内レンズは遠方と近方の両方にピンポイントが合うため、眼鏡に依存しない日常生活、またはメガネの使用頻度を減らすことが可能となり、生活の質を向上させることが可能です。通常の保険診療ではないので単焦点レンズに比べて自己負担額が増えます。
多焦点眼内レンズは、眼鏡なしで遠くも近くも見えるようになり、眼鏡から解放されたいと望む活動的な方が適応となります。ただし、現在の医療技術では必ずしも100%眼鏡から開放されるわけではなく、距離によって見にくい部分も出てくるため眼鏡が必要となる場合もあります。従来、国内で認可されている多焦点眼内レンズは2焦点(ピントが合うところ)でした。この場合は、遠方(5m以上)の焦点は共通ですが、近方焦点はいくつか選択できます。近くの焦点をどこに合わせるかについては、患者さんの仕事内容、趣味

従来の白内障手術は、術者が角膜や水晶体に術者の手で切開を加えていきます。そのためどんなに熟練した術者でも、切開創や水晶体に開ける穴の大きさが形に多少のばらつきは避けられません。フェムトセカンドレーザーは、フェムト秒(1フェムト秒は1000兆分の1秒)単位の赤外線レーザー光を連続照射することで、照射部位を光切断します。
従来は術者の手で行われていた切開創の作成、水晶体の殻に穴を開ける工程を、レーザーを用いて事前に設定した大きさと正確な位置に行うことができます。これらによって正しい位置に眼内レンズを固定することができ、眼内レンズの機能を最大限に発揮することが可能となります。
また、レーザーによって水晶体内の硬い組織を細かく分割することによって、超音波白内障手術装置の使用を最小限に減らすことができ、眼への負担を減らすことが可能です。さらに、角膜の乱視を減らすための切開も行うことができます。これらをコンピュータ制御下で安全かつ精密に、計画通りに手術を行うことができます。本手術装置は医療機器としての許認可を受けていますが保険診療では使用できないため、保険外診療での取り扱いになります。

フェムトセカンドレーザー 白内障手術(図4)

	従来的方法	フェムトセカンドレーザー白内障手術
①角膜切開		 最適な位置に正確な切開が可能
②前囊切開		 最適な位置にプラン通りの大きさで作成可能
③核分割		 最適かつ容易に乳化吸引が可能

画家・アーティスト
なかきたひろこ
中北 絃子 さん



1981年、兵庫県生まれ。
2006年、東京藝術大学大学院美術研究科
絵画専攻油絵修士課程修了後、本格的に創
作活動を始める。芦屋市と米国カリフォル
ニアのアトリエを拠点に制作を続け、国内外で
発表。近年の個展に「中北絃子展 HIROKO
NAKAKITA Solo Exhibition」(2019年、
東京・SHINSEIDO GALLERY)、「Objectively」
(同年、兵庫県・GALERIE ASHIYA SCHULE)、
「Blooming」(2018年、ニューヨーク・
GALLERY MAX)など。「数寄景/NEW VIEW—
日本を継ぐ、現代アートのいま」他、「華美」
(2019年、GINZA SIX)、「リバーアートフェア
2018」(2018年、米マイアミ)など国内外のグ
ループ展やアートフェアにも多数出展。近畿
大学、六本木ヒルズクラブなどが作品所蔵。

<https://hiroko-nakakita.com/>

【展覧会情報】
「数寄景/NEW VIEW—日本を継ぐ、現代ア
ートのいま」展は、昨年6～7月に阪急うめだ本店
(阪急うめだギャラリー)で開催され、本年2～
3月に福岡市・三菱地所アルティウムと福岡三越
(三越ギャラリー)で、3月18日(水)～3月23日
(月)には東京・日本橋三越本店(本館7階 催物
会場)でも行われる。

描くことは、祈ること。

感情を見つめ、思いを色に託す絵。

「祈る」ことで 形成された画風

カトリック系の学校で「お御堂でお祈りする」ことが日常にあったこと。それが私の原体験のひとつです。祈るということは、自己を客観視し他者を見つめることでもあるのではないのでしょうか。自分の感情を客観視するということは、立ち止まってみるということ。日々の生活、他者との関わり方、なぜこんなことを思ったのか、どうしてこんな行動をしたのか、立ち止まり振り返って見ると、大人になって祈ることはなかなかなくなりませんが、私にとって描くことが祈ることに近いのかな、と感じています。何か思ったことを色に託し人の感情を客観視しながら描いている、そんな気がしています。

感情を繊細にとらえ、受け止めてそれを色にする。人の感情をくつきりと重く

感情の「作為と無作為」がテーマ

私の創作ではおもに「作為と無作為」が通底するテーマになっています。大学院受験を考えた時に、今までずっと描き続けてきた作品たちの中で自分が何を求めているのか真剣に考え、このテーマを追求していくことにしました。

人間社会では、自由に生きてばかり受けとめないと色にならないのですが、受け止めるのが辛い時もありますね。そんな時は悩みますけれども、でも描きます。それをぶつけるように。

人間が持つ根本的な優しさの感情は人種を問わず世界共通で、時代が変わっても不変なのではないか、と感じています。世界が平和であってほしいし、その中で今の時代の個々の問題よりも、今の時代に生きる人々の普遍的な感情に興味があります。

日本とアメリカ、 異なる土地が醸す色

約10年前にご縁があった、2年間カリフォルニアに住んでいました。家族のようになつたお友だちもいて、毎年何度か「帰る場所」となりました。広い心になれる場所です。海と山が近く、またアトリエの場所が郊外なのも芦屋とカリフォルニアは似ているんです。でもカリフォルニアで制作した作品は日本にいる時と全く違った色あいになり、私の中では「カリフォルニアシリーズ」と呼んでいます。そのうちの1点は今年の六本木ヒルズクラブのパスカードにも使われています。

一昨年はNYでも個展を開き、マイアミのアートフェアにも出展しました。作品を知っていただき、いろいろなたちと知りあうことができました。今年もNYで個展を開く予定で、もともと日本らしい色調を意識していくことになりました。今は平面作品が多いのですが、着物と帯などもっと自由にいろんな分野で、画家というよりも表現者として活動していきたいと思っています。

将来的には芦屋だけではなく、東京、NY、カリフォルニア、パリなど、いろいろな場所に住んで、その土地の色をキャンバスや作品に出していきたいですね。

「数寄景」展は、昨年6～7月に阪急うめだ本店(阪急うめだギャラリー)で開催され、本年2～3月に福岡市・三菱地所アルティウムと福岡三越(三越ギャラリー)で、3月18日(水)～3月23日(月)には東京・日本橋三越本店(本館7階 催物会場)でも行われる。



絵は私の分身。楽しい時も辛い時も絵が私を支えてくれました。(芦屋市のアトリエにて) 子どもの頃の感情へ戻れるような効果がアートにはあると思います。社会に幸せをお届けするようなアートプロジェクトができればいいなと思っています。(東京・SHINSEIDO GALLERYでの個展風景)

「上から目線」は ベトナムビジネスの 敗因になる!!

『ハノイの熱い日々』出版に寄せて



日本とベトナムの関係が急速に発展している。特に、貿易や投資といった経済関係、あるいは技能実習生・留学生などの人の交流の面でそれが著しい。多くの日本人にとって、ほんの10年前までは、ベトナムは未知の国に近く、「米国とベトナム戦争を戦った貧しい国」といった程度の知識しかなかった。それが今や日本の主要な経済パートナーになり、身の回りにベトナム人技能実習生や留学生を見かけることも日常風景になりつつある。2020年、日本には約40万人のベトナム人が在住し、その半数が技能実習生、4分の1近くが留学生だといふから驚く。

すべてが順調に見える両国関係だが、しかし、これからの関係を考えると心配なこともある。それは日本、ベトナム双方にみられる「情報ギャップ」であり、相手に対する理解が深まらないまま経済関係と人的交流だけがあまりにも急速に進んでいることである。私の周りにはベトナムビジネスで痛い目にあつた日本の企業人や日本に来て憧れていた日本とかけ離れた姿に接して失望したというベトナム人が大勢いる。相手国の実情を冷静に見つめる目を持たず、漠然とした好印象だけで安易に関係を持つことから生まれる「幻滅の連鎖」がそこにある。東京で書店に行つてベトナム関連本を探すと、旅行ガイドブック

の類が書棚にずらっと並んでおり、グルメ系やベトナム語入門書なども多い。しかし、肝心のベトナムという国の実情を紹介する本やベトナム社会あるいはベトナム人について書かれた本は少なく、私が心配する「情報ギャップ」を埋めてくれそうな書物に出会うことは稀である。浅学非才な私があえてベトナム本を執筆しベトナムの実情を紹介したいと思う理由がそこにある。

この1月、私は、ハノイ時代からの友人と協力して、『ハノイの熱い日々』カナリアベトナム本を出版した。「元駐在員ら26人が語るとっておきのベトナム話」という副題が示す通り、ハノイ駐在経験を持つ大勢の企業人などに声をかけ、彼らの経験談・体験談を集めた共著である。何故こうした「文集」のような本を企画編集したかと言えば、それは現在あるいは今後ベトナムとのビジネス関係に関わる方々に先輩たちの成功・失敗の経験を伝え、それらを各自に役立てて欲しいと願うからである。特に私は彼らにはベトナム社会あるいはベトナム人に対する無理解から同じ過ちを繰り返して欲しくないとの思いが強い。ベトナムビジネスにおいて失敗する場合の最大の原因は日本でのビジネスモデルや仕事のやり方を優れたものと過信し、十分な説明・コミュニケーション努力を

行わないで、言わば「上から目線」でそのまま持ち込もうとすることにある。日本人にはともすると発展途上国の人々を見下す傾向があり、それがベトナム人のようなプライドの高い人たちの反感を買うのである。

他方、成功する事例では、対等な立場からベトナム人と接し、強い信頼関係を構築している。特に、共著者の多くがビジネス上の困難に当たって現地スタッフの協力を助けられた話を紹介しているが、彼らの持つ友人・知人のネットワークは極めて重要である。ベトナム社会では人脈・人間関係が何物にも優先するのであり、家族ぐるみを含めて相互の信頼を勝ち取ることが出来れば、それは必ずビジネスに役立つ。贈答文化もベトナム社会に深く根付いており、冠婚葬祭の折はもとより、誕生日祝いなどにも気を配る必要がある。もう一つ、共著者の一人がベトナムビジネスの心得として、「AOA」の大切さを説いているが、私も全く同感である。すなわち、「焦らず(A)」、「怒らず(O)」、「諦めず(A)」の3か条だが、ベトナムでは時間の観念が日本人とは異なり、「期限」はあつてないようなものである。「契約違反」といえばその通りであり、駐在員にとっては本社の理解を最も得にくいことの1つだが、ベトナムでは何事も計画通りには進まないのが、皆が

これを受け入れないとベトナムビジネスでの成功は覚束ない。

この本では、1990年代初め頃からのハノイの姿が克明に語られている。高層ビルが林立し、しゃれた服装に身を包む女性たちが闊歩する現在のハノイからは想像も出来ない貧困時代がつい最近まであつた。こうした「過去」を知っておくことも日本人ビジネスマンにとって必須の知識だろう。また、ベトナムは南北に細長い国土を有し、北のハノイと南のホーチミン市(あるいは中部のダナンやフエ)は異なる言語・風俗習慣を持ち、長い歴史の中では分断され死闘を繰り返した時代もあつた。物の見方や価値観にも異なる面がある。北の人間は実直・寡黙で規律を重んじる(融通がきかない?)風があるのに対し、南の人間には開放的だが自己主張が強い傾向がある。ベトナムでビジネスを展開しようとする企業人はこうした国情も頭に入れてきめ細かな経営戦略を考える必要があるが、この点でも今回のベトナム本の中で語られている先輩駐在員の経験談は大いに参考になるだろう。

実は、私は、5年ほど前に『大使が見た世界一親日の国・ベトナムの素顔』(宝島刊)という本を出版した。ベトナム人はアジアで最初に先進国の仲間入りをした日本に対してある種の「憧れ」に近い感情を



元駐ベトナム大使 坂場 三男 氏

1949年、茨城県ひたちなか市生まれ。1973年、横浜市立大学を卒業後、外務省に入省。大臣官房総括審議官、中南米局長、外務報道官などを歴任し、2008年から2010年まで駐ベトナム大使。2014年、駐ベルギー大使・NATO日本政府代表の任を最後に外務省退官。2015～17年に横浜市立大学教授。現職はMS国際コンサルティング事務所代表。著書に『ベトナムの素顔』(宝島社)、『新・遣欧使節回覧実記』(幻冬舎)、『ベトナム・アジア新論』(振学出版)など。



ハノイの熱い日々
元駐在員ら26人が語る とっておきのベトナム話

坂場三男、守部裕行、那須明 編著

過去30年、首都ハノイに長期駐在・滞在したからこそわかるベトナムのビジネス流儀と人々の生きざまや考え。今、共著者26人が合計224年の歳月をかけた経験談と体験談のすべてを語り尽くす、珠玉の証言集!!

出版：株式会社カナリアコミュニケーションズ

5名様に
プレゼント

ING 読者プレゼント

※当選発表は賞品の発送をもって
代えさせていただきます。

Web版読者の方は
ご応募いただけません

昨年11月に東京国際フォーラムで行われた「第11回 INGセミナー」で、サイバー攻撃の脅威と現状について「警視庁サイバーセキュリティ対策本部」さまにご登壇いただきました。今回、大好評であった講義内容に加え、2020年最新の脅威を踏まえ、それらへの対応策やどこで情報が得られるかについて、ご寄稿いただきました。

実は中小企業ほど狙われています



今すぐ「サイバーセキュリティ対策」を!

標的型メール攻撃とは、攻撃者が不正なメールを送り付け、メールに添付された不正なファイルやURLを受信者に開かせて情報を盗む手口を言います。ひとたび、添付ファイルやURLを開いてしまうと、パソコンがウイルスに感染し、パソコン内の情報が盗まれてしまいます。最近では、「官公署、仕事の関係者、友人・知人」を装うなど、安全なメールだと思いつまらせる手法が増えているため注意が必要です。

標的型メール攻撃 ↳ たった一通のメールから 情報流出

順位	「組織」向け脅威
1	標的型攻撃による機密情報の窃取
2	内部不正による情報漏えい
3	ビジネスメール詐欺による金銭被害
4	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃
5	ランサムウェアによる被害
6	予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止
7	不注意による情報漏洩
8	インターネット上のサービスからの個人情報の窃取
9	IoT機器の不正利用
10	サービス妨害攻撃によるサービスの停止

(出典：独立行政法人 情報処理推進機構)

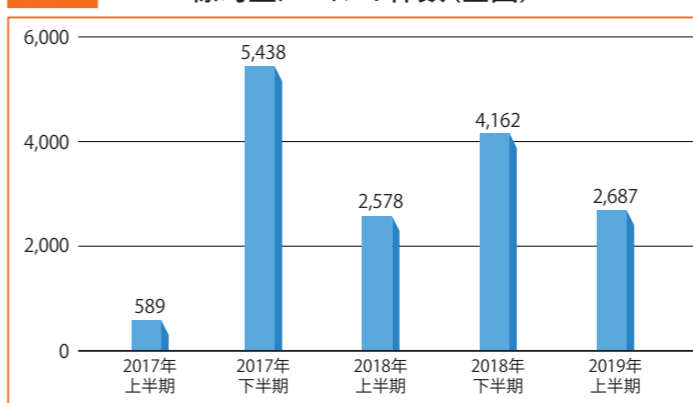
最新のメール攻撃 ↳ エモテットの脅威

最近、エモテット(Emotet)と呼ばれるウイルスへの感染を狙う攻撃メールが、国内の会社等で多く着信しています。エモテットとは、情報窃取に加え、更には他のウイルスへの感染のために悪用されるウイルスであり、悪意ある者によって、不正なメール(攻撃メール)に添付するなどして、感染の拡大が図られています。エモテットへの感染を狙う攻撃メールの中には、正規のメールへの返信を装う手口が使われる場合があります。

サイバー空間の 脅威をめぐる情勢について

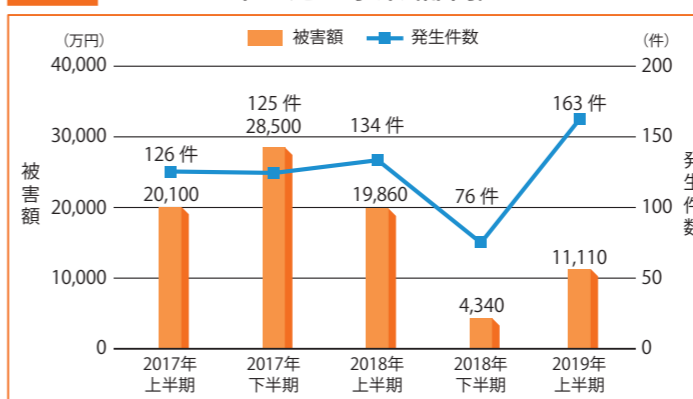
2019(令和元年)上半期の都内におけるサイバー犯罪の検挙件数は、523件(前年同期比プラス135件)でした。また、企業や官公署などの特定組織から重要情報を窃取する目的でメールを送信する手法の「標的型メール」は、全国で2,687件(前年同期比プラス109件)認知しており、2017(平成29)年上半期の589件に比べて、実に4倍に膨れ上がっています(図1)。都内のインターネットバンキングに係る不正送金の発生件数は163件

図1 標的型メールの件数(全国)



(前年同期比プラス29件)、被害額は1億1,310万円で、昨年減少傾向にあったものが急増に転じています(図2)。本年1月29日にIPA(独立行政法人情報処理推進機構)が発表した「情報セキュリティ10大脅威2020」によると、組織における10大脅威は、前述の「標的型メール攻撃」が5年連続で首位に、昨年新たな脅威として登場した「サプライチェーン攻撃」が2年連続で4位になっています(表1)。本誌においては、特に中小企業の脅威となっている「標的型メール攻撃」と「サプライチェーン攻撃」を取り上げて、その概要や対策を説明します。

図2 不正送金事案(都内)





この機会に、こうした各種施策を活用し、サイバーセキュリティ対策の強化に取り組んでいただきたいと思います。

以上のとおり、大企業のみならず中小企業にとってもサイバーセキュリティ対策の重要性が高まっています。

警視庁では、都内に所在する中小企業のサイバーセキュリティ対策の強化を支援するため、2016(平成28)年4月、東京都、警視庁、中小企業支援機関、サイバーセキュリティ対策機関等が連携し、中小企業のサイバーセキュリティ対策支援や情報共有を目的とする「東京中小企業サイバーセキュリティ支援ネットワーク(通称Tcys)」を設立し、その取組として、サイバーセキュリティ対策や情報流出事案等に関する相談窓口を都庁に開設しています。また、中小企業だけでなく都民向けにもサイバーセキュリティ対策に関する各種情報を発信しています。

警視庁の取組み
「Tcys」と情報発信

これは攻撃対象者(攻撃メール受信者)が過去にメールのやり取りをしたことのある、実在の相手の氏名、メールアドレス、メールの内容などの一部が流用された、あたかもその相手からの返信メールであるかのように見える攻撃メールです(図3)。

このようなメールはエモテットに感染してしまつたパソコンから窃取された、正規のメール文面やメールアドレスなどの情報が使われていると考えられています。すなわち、エモテットへの感染被害による情報

図3 エモットへの感染を狙う攻撃メール例

(出典: 独立行政法人 情報処理推進機構)

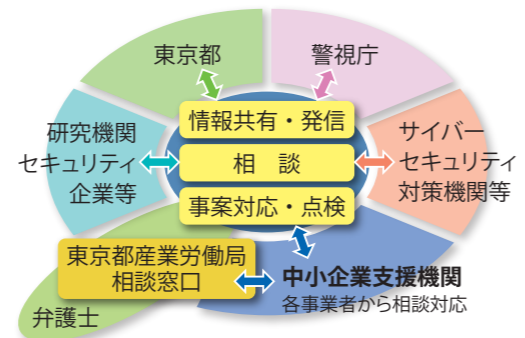


窃取が、他社に対する新たな攻撃メールの材料とされてしまう悪循環が発生するおそれがあります。

警視庁サイバーセキュリティ対策本部

東京中小企業サイバーセキュリティ支援ネットワーク

「中小企業サイバーセキュリティ相談窓口」
電話: 03-5320-4773
時間: 平日午前9時から午後5時まで
場所: 東京都産業労働局商工部
(東京都庁第一本庁舎20階北側Tcys事務局)
~無料の相談窓口をぜひご活用ください~




「サイバーセキュリティ短編アニメ10種類」





サイバー犯罪被害に遭わない遭ように、正義感が強いが少しドジなところが愛嬌の「サイバー官」と、サイバー犯罪を嗅ぎ分けるブルドック型AIロボットの「サイバーAI犬」が手口や基本的対策などをわかりやすくわかりやすく解説した短編アニメです。

下記のQRコードからご覧ください

サイバーセキュリティの情報発信をしています。ぜひ、QRコードを読み取って、ご覧ください。

警視庁 情報セキュリティ広場 

YouTube 警視庁公式チャンネル (警視庁HP経由) 

@MPD_cybersec 

「標的型メール攻撃 (エモテット) の対策方法」

サプライチェーン攻撃
標的は中小企業

- ・安易にメールの添付ファイルやリンクを開かない。
- ・安易にマクロを有効化しない。
- ・警告が出た場合は送信元に電話で確認する。
- ・OSやセキュリティソフト、ウイルス定義は常に最新にする。
- ・取引先から来たメールに違和感を感じたら、取引先に電話をして知らせる。

サプライチェーンとは、ある製品の原材料が生産されてから消費者に届くまでの一連の過程(設計開発、資材調達、生産、物流、販売等)を意味し、これらの関連企業へ侵入し、真の標的である大企業や親会社へサイバー攻撃を行うことを「サプライチェーン攻撃」と呼びます。都内に所在する企業の実に9割以上が中小企業ですが、その大半が費用や人的要因でセキュリティが十分ではないと言われています。攻撃者は、セキュリティ対策が堅牢な大企業ではなく、対策が不十分な関連企業(中小企業)を標的とし、そこを踏み台として大企業に対するサイバー攻撃を行うのです(図4)。



さらに、サイバー攻撃の踏み台とされた中小企業は、被害者のな立場であるはずなのに、大企業への攻撃に加担していることになつてしまい、取引先からの信用が失墜するだけでなく、損害賠償を請求されるおそれも生じてしまいます。

付度社会から脱却しよう。 正直が日本を救う。

高校時代の同級生から突然電話をもらった。僕がフェースブックで、ジャパンライフの山口隆祥元会長についての記事をシェアしたからだ。1984年の安倍晋太郎外務大臣ニューヨーク外遊に山口元会長は同行していたので、秘書官だった安倍晋三総理はその時、知り合ったはずという内容の記事。同級生は当時、JALに勤めていた。

「米国から日本へのフライトで安倍外相一行はアップパーデッキのファーストクラスに乗り込んだ。ところが笹川良一さんへ日本船舶振興会会長らが同じフライトに。笹川さんは上が良い」と言い出し、外相一行は下に降りた。笹川さんは外務大臣に席を譲らせる力があるのだ。ビックリしたね。若き安倍秘書官はウロウロしていた。外相行に山口元会長がいたはず。VIPに失礼がないよう対応するための特別なリストを乗務員用に作るから、そのリスト

が残っていたら、安倍総理と山口元会長の関係が立証できるよね」
悪質なマルチ商法を展開していたジャパンライフは山口元会長宛に届いた2015年の「桜を見る会」の招待状を顧客の勧誘に利用していた。パンフレットに掲げられた招待状には総理招待枠での招待であることを示す数字が記載されていた。

国会で追及された安倍総理は「対一のような形で山口氏とお会いしたことはない」と答弁したが、なぜ総理枠の招待状が送られたのか。1980年代からジャパンライフは度々、国会で取り上げられ衆院商工委員会では1985年に集中審議まで行われている。警察の自宅捜査を受け破産したジャパンライフの被害者は7000人、被害総額は1800億円に上る。

各界の功労者を総理が招く「桜を見る会」に安倍後援会約800人が

招かれていたのは税金を使った公私混同だ。そのうえ札付きのマルチ商法業者にまで招待状が送られ、しかも信用担保の材料にされていたのはなんともおかしい。

野党は予算委員会などで追求するが内閣府は招待リストは破棄されたとしてデジタルデータの復元にも取り組まない。勿論、安倍総理は、まともに答えず、はぐらかし、開き直る答弁ばかりだ。

森友学園の時には文書改ざんを実行させられた近畿財務局の役人が自殺に追い込まれているのに、財務省理財局長の付度答弁などの疑惑解明は進まなかった。加計学園でも理事長と安倍総理の友人関係により便宜が図られたとの疑惑は関係する官僚らの付度に守られた形だ。

新聞記者だった僕はこの数年、次から次へと持ち上がる安倍総理の問題

に正直になってあきれ果てている。一部のメディアは付度しているのか調査報道に熱心ではない。記者会見の様様を見ると、ほぼ一人で奮闘している東京新聞の望月衣塑子記者のように置みかける質問を官房長官にぶつけるタイプは少なくパソコンをたたいている記者が多い。「もう桜ばっかりの質疑にはうんざり」なんていうSNSへの投稿まで目立つようになって来た。

だがモリカケ桜の疑惑は日本のターニングポイントのような気がする。政治家が言葉で大事にしなくなったら民主主義はなり立たない。ましてや文書の改ざんや破棄が行われたり、付度で不正直な答弁が行われるようになって、不信の構造が常態化するのだ。

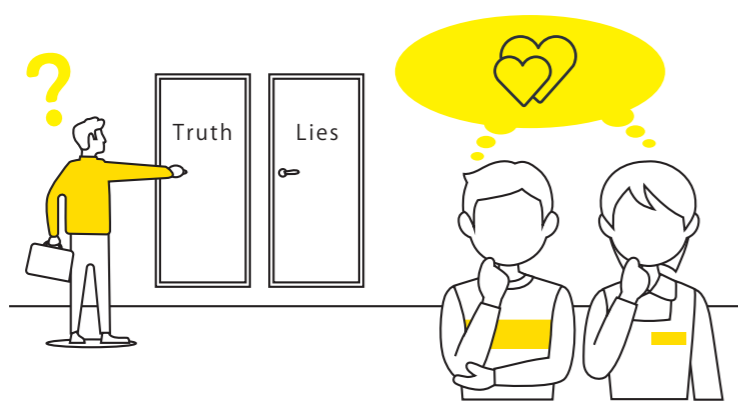
実は安倍能成(あべのよしなり)という哲学者、教育者であり、政治家でもあった人を僕は尊敬している。1996年に82歳で亡くなるまで戦前、戦後を通じて貫いた自由主義者。軍国主義を批判し、一高校長の時に近衛文麿首相に早期和平を進言して憲兵隊の監視対象になった。戦後、幣原内閣で文部大臣になり、アメリカ教育使節団の来日歓迎挨拶で「力ではなく、正義と真理によって日本に臨んで欲しい」と申し入れた。戦後の社会主義への過度の評価に対しても批判的態度をとった知性の人だった。

戦後に一般家庭の子でも入れられるようになった学習院初等科に通った僕は安倍能成学習院院長の始業式、終業式の挨拶を何度も聴いた。安倍院長は小学生に向かって常に「正直であれ」と語りかけた。「また正直であれか」と思うほど毎回数かされるので耳にタコができるほどだった。挨拶の内容はもうなにも覚えていないが、不思議なことに人生の節目で「正直であれ」の言葉が耳にこだまする。ウソをつくとさらにウソをつかざるを得ない。窮地にウソで誤魔化しなくなっても正直の方がずっと楽だ。人からも信頼される。

「同じ安倍という苗字でも能成と晋三は正反対だな」。最近そんな気もする。日本だけでなくトランプ米大統領を見てみると、言葉に信頼が置けない。オバマ前大統領が築いた成果をひっくり返し、アメリカファーストに突進して世界を混乱させている。

かつてワシントン特派員だった時にホワイトハウス報道官の会見で米メディアの記者が「ライアー(うそつき)」と言ったことがあった。報道官が血相を変えて激しく反論し会見室がしばしば騒然となった。米国では「ウソつき」と言われるのは最大の侮辱だとアメリカ人記者が解説してくれたが、今はどうなのだろうか。

なんだか世界はおかしな方向に向かっていくようだ。日本は安倍能成院長の言うように「正直」であれば道を踏み外さないだろう。ウソをついたらそれに合わせ書類を改ざんしたり、破棄したりしなければならなくなる。付度して政権に「ゴマすり出世する」のは、一時的に得したように見えるが、そんな人生はいかがなものか。



みんなが正直を規範として行動すればウソも付度もなくなる。きっと人々は信頼の絆で結ばれ日本は暮らしやすい国になるだろう。それが美しい国といつものだ。



ジャーナリスト
なか じま けん いち ろう
中島 健一郎氏

1944年東京生まれ 東京大学卒業後毎日新聞社に入社。毎日新聞の社会部で警視庁、警察庁、国税庁を担当する他、調査報道を行い、外信部ではワシントン特派員、ワシントン支局長として国際報道に携わる オウム真理教事件の時の社会部長。英文毎日局長、事業本部長を経て事業担当常務2006年に退任後は大正大学の客員教授を5年間務めた他、房総半島で新しい生き方を追求するミュアヘッドフィールズ土太郎村作りに関わっている

一泊二日の ミャンマー弾丸紀行

本誌編集委員 岩崎亮太郎



今回、新たに外国人技能実習生をミャンマーから受け入れる受人企業に同行し、現地送出し機関の視察と選抜面接の目的で、ミャンマーのヤンゴンを訪ねてきました。現地1泊、往復機内泊という弾丸日程でしたので、国の全容を見たとはとても言えないのですが、それでもヤンゴンの優しき不思議な一面に触れることができました。経済などに関するミャンマーの情報は昨今ひっきりなしに発信されており、わざわざ紹介するまでもないので、ミャンマービギナーが感じた雑感を記していきたいと思えます。



到着、入国そして両替

関西国際空港からマレーシア・クアラルンプールでの3時間の乗り継ぎを経て12時間後に、ヤンゴン国際空港に到着しました。入国審査はさほど厳しくありませんでした。渡航目的など詳細は問われず、「Go」を通してくれた印象です。ただ今回、新型コロナウィルスの件があり、もし検査に引っかかったらどうしようなどと恐れていたのですが、これについては意外なほどあっさりとして、サーモセンサー通過のみで細かくチェックはされませんでした。マスクとアルコールが完全に準備された当方としては、いささか拍子抜けの感がありました。空港到着後、真っ先に探したのが「両替所」でした。事前に「日本円をミャンマー通貨(チャット)に両替できる場所が少ない」と聞いていたので、タイトなスケジュールを考慮して空港内で何とかならないかと両替所を探してみたのです。結果、5つあった両替所の1カ所だけが「日本円買います」と張り紙を出しており、そこで両替することができました。ただ、そこは1円あたり11チャットでしたが、後で聞けば1円あたり12チャット程度とのことでした。やや足元を見られた感はありませんでしたが、無事にすぐ両替できたので手数料と違って良しとしました。ホテルやレストランではVISAなどのクレジットカードが使えませんが、タクシーは現金のみでしたので、現金はやはり必須です。時間に余裕がある場合は事前にきちんと調べ、お得なレートで両替できるところへ行くのが良いでしょう。

ミャンマーの人たちとヤンゴンの街

実質2日間、36時間程度のヤンゴン滞在でしたので、たくさんの人と交流したとは言いがたいのですが、それでもちょっとしたことからミャンマーの人たちの「人となり」を垣間見ることができました。

空港からヤンゴン市内にはタクシーで向かいました。普通であれば40分ほどで行ける距離ですが、ヤンゴンは交通渋滞がとにかく酷く、予想の1.5倍から時間帯によっては2倍見込まないと市内に到着しません。私たちが乗せてくれたドライバーは、強面で岩のような体でしたが気のいい人で、英語で話しかけてきました。



「これから来た？」と楽しそうに聞いてきます。「日本から来た」私たちも答えます。「日本は新型コロナウィルスで大変らしいな」と意外と情報通です。「そうだよ。みんな注意して身を守り、収束に向けて取り組んでいる。ミャンマーはどうか？」逆に聞いてみました。

終わりに

瞬きするが如く駆け抜けた2日間だったのですが、ミャンマーはイメージしていた通り、穏やかで優しく、心地よい人たちがゆっくりと往来しているような国でした。街は穏やかな一方で携帯電話ショップやコンビニが数を増やしており、道行く人々は伝統衣装をまとうて屋台のご飯を食べながら、スマホをいじっています。



膨大な車の量が象徴するように、穏やかなこの国にも凄まじいスピードで来るべき社会が訪れようとしているのだろうか、まだこれから発展するこの国の成長を祈ると同時に、少し複雑な気持ちにもなりました。

またいつか近い日に、次世代のツールを駆使しながらも伝統を穏やかに併せ持つ、そんなヤンゴンを訪れたいと思いつつ、日本行の夜行便に身をゆだね、私の弾丸紀行は無事に幕を閉じたのでした。



「ミャンマーはゼロだ！なぜかわかるか？日本はきれいな国だが、ミャンマーでは他にもまだいっぱいウイルスがいるから、慣れているんだ！」
笑いながら言うので、本気が冗談かわかりません。氣遣つてくれていますが、どこか能天気です。
それでも、渋滞の中でも明るくおしゃべりしつつも、きちんと目的地に届けてくれました。到着早々いい気分させてもらったのは確かです。
ホテルの人たちも、お仕事を関わった若い人たちが皆、様に優しく穏やかで、ミャンマーにはいい人しかいないとの前評判は本当だなと感じました。ただ、街中はまだ雑多で清潔とは言えず、「色んなウイルスがいる」とのドライバーの言葉も事実かもと思える状況でした。新しい建物も建ちつつありますが、その中に古い集合住宅が混在しています。



また、お坊さんたちがごく当たり前に街中を歩き、日常を構成しています。仏教国の真髄を見た気がしました。



街を歩く人たちの半数ほどは、男女ともに民族衣装の「ロンジー」をまとい、ほとんどの人はサンダル履きでした。気温が日中34度になる気候のせいもあるでしょうが、民族文化がなお都会で日常として存在し、時間の流れが止まっているかのような空気を感ずきました。

食へ物

ミャンマーの食事については、いわゆる「ご当地料理」の印象が薄いのですが、中国、ラオス、バングラーデッシュ、タイ、インドと接する立地のためか、多国籍料理は意外に美味しいものでした。

それから、仕事のあとの「ミャンマービール」！これは非常においしいいただきました。フルーティーで飲みやすいのですが、決して甘すぎず、どんな食事にも合いました。気温の高い地方ならではの味わいのように、お酒をさほどたしなまない筆者としても、これはお勧めしたいところです。



長野市

ここから

旅の始まり

歴史の宝庫、信州

「天の岩戸」伝説の舞台として知られる戸隠神社奥社の参拝を終え、小鳥たちと一緒に長い参道を下ると、茅葺きの赤い随神門まで辿り着く。このあたりは、信州のパワースポットとしても紹介されたところ。たしかに、樹齢400年という杉並木の間を歩いていると荘厳な気分になる。戸隠神社参拝に加えて大自然のパワーもいただいたし、きっといい旅になりそうだ。

お問合せ先：（公財）ながの観光コンベンションビューロー
TEL:026-223-6050 URL:<https://www.nagano-cvb.or.jp/>

